

東京新聞 暮らすめしと



東京新聞読者の生活情報紙

お元気ですか.....

心臓 パートIV



南淵 明宏 39

「お願いします。赤いクスリ出して下さい。よく効くんです。血圧下がるんです」
 「えー！ あれって便秘の薬ですよ！」
 患者さんの勘違いで効くはずのないクスリが効く。医学ではプラセボ効果とよんでいますが、人間の思い込みとはものすごいもの。私も先日、夜中に頭が痛くなつて頭痛薬を飲んだらすぐに治つたのですが、朝起きて確認すると飲んだのは

なんと胃の薬でした。

一方、よく効くクスリは「効き過ぎ」という副作用があります。高血圧の薬を飲んだら血圧が下がりすぎることもあるのです。かくしてまともな効くはずのクスリはかえって敬遠され、

正義は権力者の利益

偽薬相当

「鼻くそ」程度のクスリがまん延することに。
 ぜんぜん効かないことが証明されて処方されなくなつたクスリもあります。年間の売り上げ七十億円と、日本で見えないクスリ、

医学部で教官が学生に「君らだってこんなクスリは信じられないだろう！」と説明するクスリまでありました。どうしてそんなクスリが認可され、処方され続けたのでしょうか？

「越後屋、お前もワルよ

のう。グヒヒヒヒ」

「お奉行様の方こそ。ゲヒヒヒヒ」

おそろくこんなことでしょう。

データを改ざんしてその薬効があると宣伝されてクスリが売られていた詐欺商法事件が数年来話題にな

っています。結局なんのおどがめもなし。

世界最大の製薬会社だから？ 「正義とは権力者の利益である」。ギリシャの哲学者、カリクレスの言葉です。

STAP細胞は別の意味で日本の科学史に名を刻みました。結局科学者の研究データなど、元来思い込みの産物でしかないようです。



プロフィール なぶち・あきひろ

奈良県立医科大学卒。セント・ビンセント病院、国立シンガポール大学病院などを経て、2010年12月から品川区の大崎病院東京ハートセンターのセンター長。医学博士。